



先端基準という今日の必要性

令和7年11月14日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

先端性はその向上とともに現実基準として企業は現実を求める。そして今日の変化においてそれらはより優れた未来という変化を約束するものである。

これら市場原理という非情な現実へ、企業へ冷酷な判断を与えるものである。

しかしそれら先端性を自己とすることは未来への参加を与える基盤であり、企業がこれら現実と基準における自己を有することは未来への基盤として企業が自己を行うことであるとする。

しかし企業が生き残りを求めるとき、その先端性を否定することは今日全ての企業において不可能である。

しかし先端性において優れることは、企業の価値そのものであり、それらが未来を可能とすることができることも真実である。

シビアな現実とはビジネス社会における現実そのものであり、自己企業の向上を求めるとき、先端性における飛躍を行うことは誤りでないものである。

より優れたビジネスシステムや企業システムはより優れた現実を与えるものであり、現実という基準は常にその先端性を追求するものである。

これらは基準点の転換における企業の転換は、それら現実への参加を実現できるものである。

これらは経営の飛躍が企業の飛躍を可能とできるものであることを示すものである。

時代性と進歩性は、常にその創造性において存在する。それらは企業のソフト資産が与える未来という可能性なのである。